



よくかんで、よくたべる!

まちづくり特集

過ぎゆく年、新しい年に、みなさんはどんな思いでいらっしやいますか? 2025年は私にとって、みなさんの声に応えるためにあらゆることに耐え忍びながら、関わりを上げていく1年でした。3年目というのは、議員でも世の中の様々な仕事でも、大筋がわかってくるだけに悩むことも増えますね。2026年は電話やメールでの相談だけではなく、気軽に街で声を聞かせてもらうことをもっと大事にしていきたいと思っています。

今回は東京都が今後15年間の道路整備方針を策定中ということで、大きな道路が本場に必要なのか、杉並区のまちづくりがどうなっていくのか、みなさんと一緒に考えたいと思います。バリアフリー、防災、世界から注目される昔からのつながりや営みの続く商店街、緑化やCO2削減など論点はたくさんありますが、「まち」を考えるにはそこに暮らす人の声は何よりも大切です。

「まち」について話そう! パブリックコメントを書こう!

東京都が、都市計画道路の新たな整備方針(案)についてのパブリックコメントを募集しています。また、杉並区も方針について説明会を開催しているので、参加して詳細を聞き、一言でも長文でも、都に意見を伝えてみませんか?

パブコメ募集期間: 2025年12月19日(金) ~ 2026年1月30日(金)



パブコメの入力は
こちらから!



東京都の整備方針(案)は
こちら!

杉並区でのオープンハウス

- 1月11日(日) 10~12時 コミュニティふらっと阿佐ヶ谷
- 1月12日(月) 10~12時 西荻地区区民センター
- 1月14日(水) 14~16時 コミュニティふらっと本天沼
- 1月16日(金) 14~16時 井草地区区民センター
- 1月17日(土) 10~12時 コミュニティふらっと高円寺南
- 1月22日(木) 14~16時 永福和泉地区区民センター
- 1月23日(金) 14~16時 高井戸地区区民センター



わからないことがあったら
たらだはるか まで!

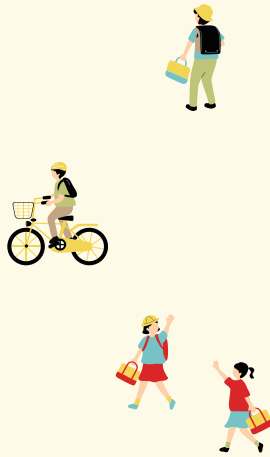
☎ 070-1385-3043

✉ teraharu.minnanomachi@gmail.com

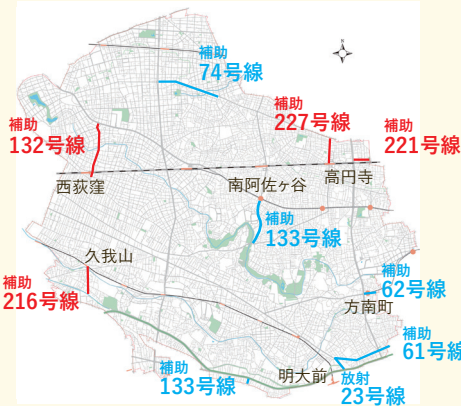
東京都の
都市計画道路の整備方針

都市計画道路には、東京都が土地の買収なども含めて行なっていく都施行路線と、杉並区が主導して整備していく区施行路線とがあります。区施行の路線については、どこを優先的に整備していくかについて区から意見が出せません。

今年度に入る頃から都とそれぞれの区市町村が何度か意見交換を重ね、東京都が2025年の夏に方針の中間まとめを公表しました。その後11月14日付で区から都へ、区施行の優先整備路線について回答しました。12月19日にそれらを反映した方針案が東京都から示されています。



第4次事業化計画
(2016~2025年)

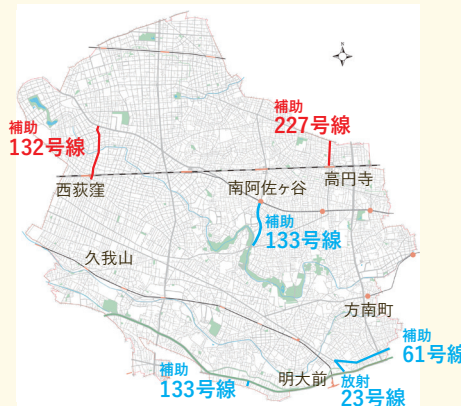


参考 都市計画道路の次期事業化計画における区施行優先整備路線について(報告)

区施行路線 西荻窪の補助132号線は全長1070mのうち青梅街道から南に向かって606m、高円寺の高架沿いにある補助221号線の高長は、事業化され現在用地買収が進んでいます。

都施行路線 中杉通りを青梅街道から南側に延伸し五日市街道へと抜ける補助133号線。住宅街を突っ切り、善福寺川緑地を削る計画です。補助74号線は早稲田通りです。拡張することで自転車レーンが整備されています。

第5次事業化計画(案)
(2026~2040年)



参考 東京都の整備方針(案)

区施行路線 前回と同様の個所は高円寺の純情商店街と庚申通り商店街を潰して通る補助227号線。そして西荻窪の補助132号線のうち今事業認可されている606m以降、西荻南二丁目の信号までの区間。前回優先整備となっていた久我山の補助216号線は計画としては残っていますが、優先整備路線からは一旦外れました。

都施行路線 前回と同様に、補助133号線が優先整備路線です。

まちづくりと防災

すべての質問は動画で▼



TOPIC 2
コミュニティの力で助け合った事例
2025年11月に杉並区内で、木造の建物が密集する商店街で火災が起きました。店舗の裏手で電気系統の不具合により発生した火災でしたが、日中で店に人がいたため、通報や初期消火ができた事例です。その店の消火器、隣の店の台所から引っ張ってきたホースでかけた水、隣の店の常連客が調理器具に水を汲んでバケツリレーをするなど、その場にいた人の協力でなんとか延焼を防ごうとしていたところに消防車が到着したそうです。

第4回定例会では、一般質問でまちづくりと防災について聞きました。都市の強靱化を掲げて道路ネットワークの構築を急ごうとする東京都。しかし地域の防災にとって本当に必要なのは、できるまでに何十年もかかる太い道路なのでしょう。幅の広い道路ができれば高層ビルを建てられるようになり、地価が上がって家賃も上がるなど、別の大きな影響もあります。防災というなら、まずは地域の中で人と人との声を掛け合えること、訓練やシミュレーション、災害備蓄などの備え、狭すぎる道路を少し広げて緊急車両の通り道を確保すること、小型のポンプ車配備、まちなかの空地整備や消火器の設置など、「自分や大切な人の命と住み慣れた地域を自分たちで守れること」が大事ではないか。まちに住む人や生業のある人の話をもっと聴くべきではないか。そうした観点から質問しました。

TOPIC 1

杉並区の大きな魅力！商店街を守る取組

Q 東京都の「商店街防災力向上緊急支援事業補助金」の活用実績と、区が独自に商店街の規模資機材・備蓄品購入などを補助することで災害対応力を高める考えは？

A 都の補助金は2つの商店街が申請済み。区は防災訓練の周知や消耗品購入費を補助しています。

Q 杉並区の魅力である商店街を守るため、日頃から地域と商店街が協力関係を築き、防災に関する自助・共助の取組を強化する仕組みが必要ではないか？

A 区は行事を通じて普及啓発に努めており、防災訓練の要素を加えて地域全体の防災性を向上させます。



TOPIC 3

京都市の木造密集地域の防災対策

Q 京都市が「細街路の個性」や「路地で培われてきたコミュニティの力」を尊重する密集市街地対策の視点を、杉並のまちづくりにも強く取り入れるべきではないか？

A 京都市とは状況が異なるが、区もコミュニティの力を生かすことを大切にしており、地域特性を生かしながら協働でまちづくりを進めます。

京都市は木造密集地域であり、かつ歴史的文化的に重要な建築や町並みを多く抱えているため、防災に関しては緻密な研究が重ねられてきました。空家や空き地を市が無償で借りる代わりに固定資産税の減免を行なって整備する「まちなか commons」など、見習うべきところがたくさんあります。

TOPIC 4

都市計画道路で防災は強化されるのか？

杉並区が今回の東京都の方針改定に合わせて行なった独自の検証について、夏のオープンハウスの参加者何人かから、防災の考え方が変ではないかと突っ込みが入っていたことも取り上げました。

Q 区の独自指標に基づく都市計画道路の効果検証の記載は、広域避難場所の考え方など、これまでの地域防災計画との間に矛盾があるのではないか？

A 独自検証は防災計画を元にしたものではないが、防災計画でも整備は予防対策と記載しており、矛盾はありません。

地域防災計画を参照せずに、本来に矛盾がないものができるのか、一般化して考えてしまうと見落とす地域特性があるのではないかと、大いに疑問の残る答弁です…。

Q 杉並区のまちづくりにおいて、区民が自分のまちについて考える機会を区と地域の協働で今後増やすのか、それとも都市計画道路のような大きな課題が生じた時のみ話し合いの場を設けるのか？

A まちの状況等を踏まえ、対話の機会を設けるか考え、協働や主体的なまちづくりを推進します。

区が用意した対話の場だけでなく、行政が受け取りやすいフォーマットで提出された声だけでなく、まちの多様な声は様々な形で発出されています。杉並区が区の魅力や区民の生活を損なわずにまちづくりをしていくには、聴くべき声はまだある、ということを、再質問でもしつこく伝えました。